

骨粗鬆症検診の実施に向けて －横浜市医師会でのご報告と全国への広がり－

骨粗鬆症財団では、全国各地の自治体や医師会の皆さまに、骨粗鬆症検診の重要性をお伝えし、検診体制の整備に向けた働きかけを行っています。

「健康日本 21(第三次)」では、令和 14 年度までに検診受診率 15%の達成を目指していますが、2022 年時点では 5.5%と低く、目標との乖離は大きいのが現状です。中でも、全国の県庁所在地 18 市では検診が未実施であり、早急な態勢づくりが求められるところです。

今回は、人口最多の自治体である横浜市において検診実施を推進すべく、横浜市医師会での検診の意義について説明する機会をいただきました。

この機会は、地域の啓発活動に熱心に取り組んでいる骨粗鬆症マネージャーの林綾野先生にご相談したことをきっかけに、ご縁を通じて実現したものです。当日は勤務先院長の武田勇樹先生が医療経済の視点から、林先生が骨粗鬆症マネージャーの立場から、それぞれ検診の意義と必要性についてお話くださり、財団事務局からは全国の検診実施状況や課題についてご説明を行いました。参加された医師会役員の先生方からは、検診実施に向けた前向きなご意見や、自治体への申請を検討するとのお言葉もいただき、今後の広がり期待しております。

骨粗鬆症検診は、骨折予防の第一歩です。この大切な一歩を多くの方に届けるために、今後も全国で活動を続けてまいります。

地域での検診実施や啓発の取り組みについて、「どうしたらいいの?」という疑問がありましたら、どうぞお気軽に財団までお問い合わせください。一人では難しいことも、皆で力を合わせればきっと実現できます。

ぜひ、メディカルスタッフの皆さまにも、地域での働きかけや日々の啓発活動にご協力いただき、啓発の輪を広げてまいりましょう。

骨粗鬆症財団
事務局
検診事業担当